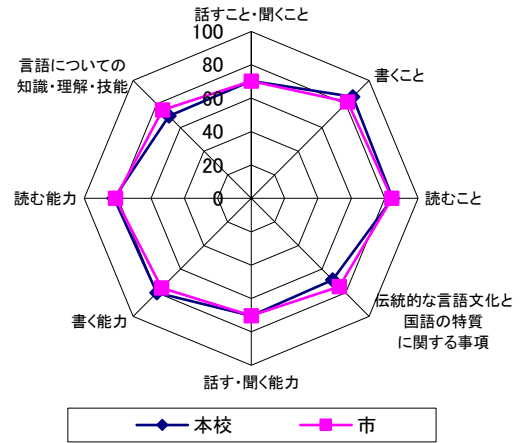


# 宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	70.4	70.3	68.2
	書くこと	86.2	81.7	80.6
	読むこと	84.7	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.0	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	70.4	70.3	68.2
	書く能力	79.8	76.0	74.1
	読む能力	82.1	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	69.7	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

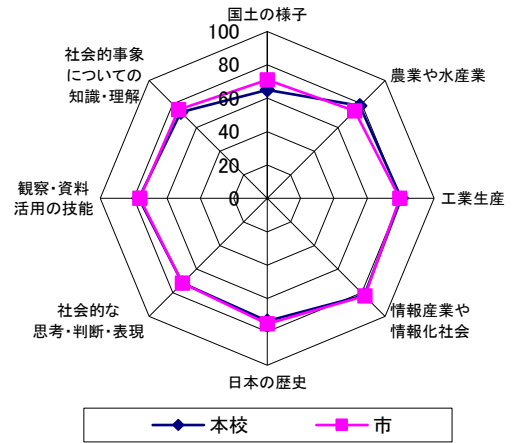
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○質問した内容から、どのようなことに疑問をもったのかを考えて選ぶ問題では、正答率が100%であった。 ●話し手の考えに当てはまるものを選ぶ問題では、正答率が75%で、市平均を10.9ポイント下回った。	・話の内容を大まかに捉え、大事なことを正確に聞き取ることができるようにするため、聞き取ったことを要約させるなどの指導をしていきたい。
書くこと	○グラフから読み取った事実をもとに、自分の意見を書くことができるかに対する正答率が92.9%と市平均を4.4ポイント上回った。 ●グラフから読み取った事実を書くことができるかに対する正答率が、78.6%と自分の意見を書くことに比べて低くなっている。	・考えたことを文に表現することはある程度できると考えられる。一方、グラフから読み取った事実を書くことに難しさがあるため、教科横断的に資料を読み取る力を付けていく指導をしていきたい。
読むこと	○場面の描写と登場人物の心情を読み取ることができるかを問う問題では、正答率が89.3%で、市平均を8.3ポイント上回った。 ●「食物網」が表す意味を文脈から判断する問題では、正答率が78.6%で、市平均を11.7ポイント下回った。	・分からない言葉を文脈から判断する力を伸ばすために、教材文で難しい言葉が出てきた際には児童に言葉の意味を問いかけてみるなどの活動を取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「省く(はぶく)」を読む問題では、正答率が89.3%で、市平均を8ポイント上回った。 ●「額(ひたい)」を書く問題では、正答率が46.4%で、市平均を10.9%下回った。	・既習の漢字を定着させるために、漢字練習をさせることはもちろん、積極的に漢字を使って文章を書くように声かけしていきたい。

# 宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	65.0	71.0	69.4
	農業や水産業	78.6	74.0	69.0
	工業生産	80.4	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	82.1	82.8	88.7
	日本の歴史	73.5	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	71.8	71.9	67.2
	観察・資料活用技能	76.9	76.3	70.7
	社会的な事象についての知識・理解	73.2	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

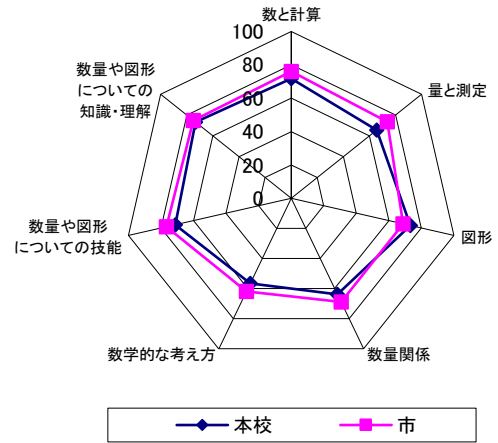
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○日本の山脈や川、平野の名前を問う問題では、正答率が64.3%で、市平均を4.1ポイント上回った。 ●地図を見て示された海洋の名前を選ぶ問題では、正答率が64.3%で、市平均を15.2ポイント下回った。	・折に触れて話題に出し、繰り返し確認していくことで、基礎的な知識が確実に定着するように指導していきたい。
農業や水産業	○資料を基にして説明している文を選ぶ問題では、正答率が92.9%で、市平均を8.7ポイント上回った。 ●稲作の「しろかき」について資料を読み取る問題では、正答率が85.7%で、市平均を2.5ポイント下回った。	・考えたことを文に表現することはある程度できると考えられる。一方、グラフから読み取った事実を書くことに難しさがあるため、教科横断的に資料を読み取る力を付けていく指導をしていきたい。
工業生産	○資料で示された自動車の特徴を読み取って選ぶ問題では、正答率が92.9%であった。 ●自動車が金属工業、機械工業、化学工業、食料工業のどれにあたるかを選ぶ問題では、正答率が67.9%であり、他の問題に比べて正答率が低かった。	・与えられた資料を基に、論理的に思考する力の向上が必要であると考えられる。そのために、仲間分けをする際にはどうしてその分類になるのかなど、理由に焦点を当てて話し合う活動により重点を置いて指導していきたい。
情報産業や情報化社会	○テレビやラジオ、新聞などの情報手段の特徴について適切なものを選ぶ問題では、正答率が67.9%で、市平均を1.9ポイント上回った。 ●情報ネットワークが導入されている場合とされていない場合を見比べて、長所として当てはまらないものを選ぶ問題では、正答率が67.9%で、市平均を3.2ポイント下回った。	・選択肢の内容を正しく理解し、資料と照らし合わせる能力の向上が必要であると考えられる。そのために、まずは国語科で正しく文を読む力を身に付けさせることができるよう指導していきたい。
日本の歴史	○古墳が作られたころの日本の様子として正しいものを選ぶ問題では、正答率が96.4%で、市平均を11ポイント上回った。 ●板垣退助の働きを通して、国会開設までの過程について理解しているかを問う問題では、正答率が53.6%で、市平均を17.4ポイント下回った。	・幕末から明治維新のころの出来事を忘れてしまっていたことから、もう一度大まかな時代の流れを復習させるとともに、重要人物達が行ったことを調べ直させることで知識の定着を図る。

# 宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.8	76.1	73.5
	量と測定	65.5	73.6	70.1
	図形	73.2	68.8	66.6
	数量関係	63.8	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	56.6	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	71.2	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	73.4	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

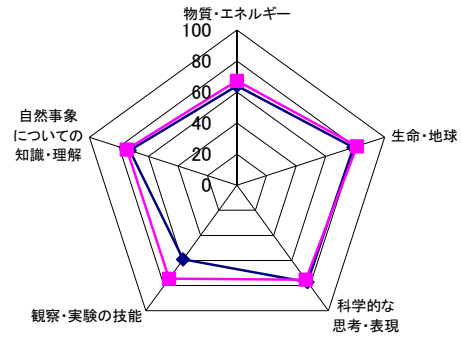
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○通分のある真分数＋真分数の計算をする問題では、正答率が85.7%で、3.6ポイント上回った。</p> <p>●小数のわり算の文章問題に合った式を選ぶ問題では、正答率が46.4%で、市平均を15ポイント下回った。</p>	<p>・問題文を理解し、数直線の図を選ぶことは7割程度の児童ができていたため、そこから式にする方法を忘れてしまったと考えられる。数直線から式にする作業は繰り返し出てくるため、その都度立式の方法を確認することで定着を図りたい。</p>
量と測定	<p>○道のりと時間から速さを求める正しい式を選ぶ問題では、正答率が92.9%で、市平均を3.6ポイント上回った。</p> <p>●高さが図形の外にある平行四辺形の、高さにあたる場所を選ぶ問題では、正答率が35.7%で、15.8ポイント下回った。</p>	<p>・考えたことを文に表現することはある程度できると考えられる。一方、グラフから読み取った事実を書くことに難しさがあるため、教科横断的に資料を読み取る力を付けていく指導をしていきたい。</p>
図形	<p>○六角形の内角の和を求める式を選ぶ問題では、正答率が71.4%で、市平均を19.3ポイント上回った。</p> <p>●点対称な図形を選ぶ問題では、正答率が78.6%で、市平均を2.9ポイント下回った。</p>	<p>・線対称や点対称は、基本的には一つの単元でしか出てこないため、他教科においても線対称や点対称なものが出てきた際には、児童に提示するなどの指導をしていきたい。</p>
数量関係	<p>○文字を使って2つの数量の関係を式に表す問題では、正答率が89.3%で、市平均を7.1ポイント上回った。</p> <p>●反比例の表の空欄にあてはまる数を求める問題では、正答率が10.7%で、市平均を30.6ポイント下回った。</p>	<p>・反比例の性質についての知識の定着が不十分であったと考えられるため、確認するとともに、類似問題を解かせることで知識の定着を図りたい。</p>

# 宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.0	67.3	64.4
	生命・地球	78.8	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	77.2	75.3	72.6
	観察・実験の技能	59.1	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	72.7	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校      ● 市

## ★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの    ● 課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○塩酸の性質を調べる実験の結果から、予想を検証し、その理由を書く問題では、正答率が75%で、市平均を15.9ポイント上回った。</p> <p>●塩酸の性質と、塩酸を熱したときの変化として正しいものを選ぶ問題では、正答率が10.7%で、市平均を21.3ポイント下回った。</p> <p>●ミョウバンを取り出す実験装置を見て、それが「ろ過」であることを答える問題では、正答率が39.3%で、市平均を21.5ポイント下回った。</p>	<p>・科学的な用語や知識の定着を図るために、単元末などに、学んだことをキーワードを使って記述させる場を多く設定していきたい。</p>
生命・地球	<p>○消化された養分が体のどの部分で吸収されるかを問う問題では、正答率が78.6%で、市平均を13.5ポイント上回った。</p> <p>○地球上から酸素がなくなる理由を説明する問題では、正答率が100%であった。</p> <p>●葉にでんぷんがあるかどうかをうすいヨウ素液を使って調べる方法を問う問題では、正答率が17.9%で、市平均を53ポイント下回った。</p> <p>●満月だった月が再び満月になるまでの期間を問う問題では、正答率が60.7%で、市平均を24.4ポイント下回った。</p>	<p>・考えたことを文に表現することはある程度できると考えられる。一方、グラフから読み取った事実を書くことに難しさがあるため、教科横断的に資料を読み取る力を付けていく指導をしていきたい。</p>

## 宇都宮市立上河内東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業の最後に、本時のまとめを行って全員で確認し、一人一人がめあてに合った振り返りを自分の言葉でノートに書く時間を設けている。	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートにまとめている」に肯定的に回答した児童の割合は、4・5年生が70%台で市の平均を下回ったが、1～3年と6年生は、90%以上で市の平均を上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学年に応じた家庭学習に取り組む目標時間を設定し、連絡帳等に家庭学習した時間を記録させて担任が確認する。学習内容や学習時間など、個に応じた指導を行うようにしている。	・「家で宿題をきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は、5年生は、83%で市平均を7%下回ったが、他の学年は95%以上であり、市平均を上回った学年が多かった。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学年により学力調査の結果に違いが見られ、平均との差も学年により大きく違っている。6年生は、国・市の調査ともに平均と同程度かやや下回る観点がある。4・5年生は、県の平均を大きく下回っている観点が多く、言語や計算の基礎学力が定着していない傾向が見られ、記述式問題への無解答も多い。次年度も、まとめや振り返りを行いながらノート指導を充実させ、自分の考えを分かりやすくノートにまとめる力の育成に努める。

・4月の国・県の調査と12月の市の調査を比べると、「家で宿題をきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合が向上してきた。「概ねできている」と回答した児童が多い学年もあったので、スタンダードダイアリーなどを活用した家庭学習の習慣化に向けた取り組みを家庭と連携しながら充実させる。





・考えたことを文に表現することはある程度できると考えられる。一方、グラフから読み取った事実を書くことに





難しさがあるため、教科横断的に資料を読み取る力を付けていく指導をしていきたい。